

令和7年度 看護業務改善のためのICT導入アドバイザー派遣業務

ICT導入による看護業務改善計画

医療法人富家会富家病院

施設概要

病院の理念

「されたい医療 されたい看護 されたい介護」
ICT導入による看護業務改善を目指す病院へのアドバイザー派遣



所在地	埼玉県ふじみ野市亀久保2197
病床数	281床(令和8年3月1日現在)
主に算定している入院基本料	地域包括ケア病棟30床、地域包括医療病棟20床、障害者病棟89床、回復期病棟29床、医療療養病棟113床
職員数	504名(令和8年3月1日現在) うち看護職員255名(看護師159名、看護補助者96名)
患者数	令和6年度 入院患者数627名、退院患者数625名(うち看取り患者数108名)
看護部の理念(患者へのケア方針)	常に”自分の父、母、祖父母だったらどのようにしてあげたいか”の視点で考え、笑顔と親しみやすさ、感謝のところで看護・介護の提供に努める
看護提供方式	固定チームナーシング
看護記録方式	POS(問題志向型システム)、SOAP
現在使用している看護機材	AIロボット掃除機、眠りスキャン、ベッドセンサー、離床センサーマット、インカム、チャットGPT、見守りカメラ、リリウム、ポータサウンド、タムガイド、ヘルプパッド等
看護師の離職率	令和7年度 新人看護師17%、その他看護師9%
問い合わせ先	病院HP: https://www.fukekai.com/ 代表電話番号049-264-8811

本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

- 当院ではこれまでスマートベッド、眠りスキャン、ヘルプパッド、トランシーバー、インカム、掃除ロボットなど様々なICT機器を導入してきた。しかし、それらは部分的な導入であり十分に活用されているかどうかについては評価が十分に行われておらず、導入効果を最大限に引き出せていない可能性がある。今回の事業に参画することで、既存のICT機器の運用状況を整理し、より効果的に活用することによって看護業務の改善に繋がると考え、本事業への参画を決定した。

本事業の目的

- 本事業の目的は、既存のICT機器の活用状況を見直し、従来のインカムとトランシーバーを廃止、新たに全病棟へインカムを導入して、看護業務の効率化を図ることである。ICT機器の整理とAIの新規導入を通じて、患者ケアの充実を実現し、情報共有の円滑化、看護業務の効率化を目指したい。

取り組み予定期間と主な内容

期間	主な取り組み内容
令和7年度	<ul style="list-style-type: none">• 看護業務課題の抽出• ICT機器を導入せずとも改善可能な業務の改善方針の検討・反映• 業務改善の院内での進め方に関する合意形成
令和8年度	<ul style="list-style-type: none">• 現場への使用方法のレクチャー
令和9年度	<ul style="list-style-type: none">• 導入後のICT機器の効果測定• 1～2年目の取り組みの振り返り、4年目以降で取り組むべき課題の洗い出し
令和10年度以降	<ul style="list-style-type: none">• 3年目に洗い出された課題への取り組み

課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

業務の効率化と質の向上を両立させ、スタッフの心理的負担を軽減し、持続可能な医療提供体制を築いていくことを目指す

目標

1. 重複したナースコール対応による無駄な時間の削減
2. スタッフ間連絡の迅速化による移動時間・探索時間の削減
3. インカム活用の習慣化による業務の標準化
4. 情報伝達負担の軽減によるストレスの低減
5. コミュニケーション円滑化による協働の促進
6. ナースサマリーAI活用による作成時間の削減
7. ナースサマリーAI活用による心理的負担の削減

取り組み内容(業務改善を行う業務)

#	業務改善する内容	用いるICT機器等	従来の所要時間 (時間/年)	想定削減余地	
				想定削減 可能時間(時間/年)	業務全体に占める 割合(%)
1	重複したナースコール対応による無駄な時間の削減	インカム	182.5	182.5	7%
2	スタッフ間連絡の迅速化による移動時間・探索時間の削減	インカム			
3	インカム活用の習慣化による業務の標準化	インカム	使用率10%	使用率100%へ上昇	-
4	情報伝達負担の軽減によるストレスの低減	インカム	ストレス過多	ストレス軽減	
5	コミュニケーション円滑化による協働の促進	インカム	口頭、電話のみ	インカムでの協働あり	
6	ナースサマリーAI活用による作成時間の削減	Chat GPT	600	300	5%
7	ナースサマリーAI活用による心理的負担の削減	Chat GPT	ストレス過多	ストレス緩和	-

ICTのご紹介(VOYT CONNECT)

個別通話・グループ通話、文字起こし機能などを兼ね備えた、AIインカム。医療従事者間のコミュニケーションの効率化に寄与

製品の概要

- VOYT CONNECTとは、モバイル端末にインストールして使用するAIインカム
- 前提条件としてiOS端末もしくはAndroid端末、Wi-Fi環境が必要。ただし携帯キャリアが利用できれば代替可能
- ボタン一つで即座にグループ通話内のチーム全員に連携することが可能になり、看護師を探し回ったり多職種間連携時の無駄を削減
- 発話内容は音声ファイルと自動テキスト化して保存。いつでも振り返れる
- ナースコール連携により呼び出し通知をグループ通話内に音声とテキストで共有。重複対応や対応漏れを防げる
- 同時通訳機能あり(スタンダードプランのみ)



課題と期待される効果

課題

- スタッフ間でのコミュニケーションを取るために時間・労力がかかる
- 病棟内もしくは院内のどこにいるかを探すために時間や労力がかかり、スムーズにコミュニケーションが取れない
- ナースコールにがれが出たのか、出ていないのかが分からず重複や対応漏れがある
- 言った言わないのコミュニケーションエラー

期待される効果

- 医療従事者間のコミュニケーションの効率化
 - ✓ 相手の状況に依らず、連絡事項をスムーズに連携できる
 - ✓ 連絡したい相手がどこにいるかを探さなくても良く、コミュニケーションコストが低くなる
 - ✓ 会話が記録に残るため振り返ることができる

ICT導入により見込まれる効果

#	製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
		定性or定量	測定したい効果			
1	VOYT CONNECT 経費 ・1台17200 円 ・月々800円 Iphone ・月々4500 円	定量	①重複したナースコール対応による無駄な時間の削減	タイムスタディ	10分以上削減	導入6ヶ月後
			②スタッフ間連絡の迅速化による移動時間・探索時間の削減	タイムスタディ	10分以上削減	導入6ヶ月後
			③インカム活用の習慣化による業務の標準化	定点調査	使用率80%以上	導入6ヶ月後
		定性	④情報伝達負担の軽減によるストレスの低減	アンケート調査	患者、看護師のそれぞれ半数以上(50%以上)が導入後の運用に満足している	導入6ヶ月後
			⑤コミュニケーション円滑化による協働の促進			導入6ヶ月後
2	Chat GPT 経費 ・月々3000 円	定量	⑥ナースサマリーAI活用による作成時間の削減	タイムスタディ	10分以上削減	導入6ヶ月後
		定性	⑦ナースサマリーAI活用による心理的負担の削減	アンケート調査	看護師の半数以上(50%以上)が導入後の運用に満足している	導入6ヶ月後

本事業全体を通して得られた効果・影響

1. ICTについて使いたい部署で使えばよいとあきらめていたが、今回の取り組みで全病棟で開始することで、ICTの課題や改善点、使い方のポイントなど病棟間で共有することも出来るためより使いこなせるようになるかもしれないと期待している。
2. 今後電子カルテのリニューアルなどもありこの経験を活かして、今は誰も使わなくなってしまった、バイタル機器との連携など再度見直したいと思うようになった。
3. 病院全体で同じ機器を使用することで、一体感を感じることが出来る。
自分の部署は関係ないと思わず積極的に介入できる

当院での取り組みポイント



- 今までICT機器はさまざまなものを取り入れてきたが、うまく活用できていたかは疑問である
- ICT機器が全部署ではなく一部の部署でしか使われていない現状を何とかしたいと思い全病棟に新規インカムとChatGPTを導入した
- まだ導入段階ではあるが、全病棟意欲的にレクチャーを受け使用開始している。各病棟へのヒアリングを続けて半年後の評価まで使用率を維持していくことが目標。

今後の展望

令和8年6月

- インカムの全病棟への配布、レクチャー終了予定
- Chat GPTの全病棟へのレクチャー終了予定

令和8年12月

- 6ヶ月後効果測定、課題と計画修正

令和9年6月

- 1年後効果測定、課題解決の評価と計画修正

ご清聴ありがとうございました